



## 北海道子ども読書応援団ニュース

## ゆめ＊よみ

北海道教育庁生涯学習推進局

生涯学習課読書推進係

TEL : 011-204-5994

FAX : 011-232-2236

## 包括連携協定に基づく読書活動の推進

北海道と民間企業が締結している包括連携協定に基づき、北海道教育庁生涯学習課では、プロ野球球団や民間企業と連携し、家庭や地域の読書活動を促進する取組を進めています。

プロ野球球団と連携した取組については、道内158の公立図書館に協力いただき、子どもの読書習慣の定着を図る取組を進めています。小学生を対象に読書キャンペーンの参加募集を行い、参加する児童はキャンペーン期間中に読んだ本を読書通帳に記録し、目標冊数を読了した児童に記念品を贈呈するというものですが、開始年度(2017年)は987名の参加から、今年度は1787名の児童の参加申込があり、大幅に増加しました。

民間企業と連携した取組として、昨年度、公立図書館に協力いただきながら民間企業と連携して読み聞かせ会を道内2カ所で試行実施しました。参加者からは「絵本を通して考える場面もあったので大人も楽しめた」、「家では体験できない大型絵本による読み聞かせは見やすく、分かりやすかった」などの声があり大変好評でした。こうした活動が家庭や地域の読書活動の担い手の育成につながるよう、「読み聞かせ講座」の開催を目指して、今後も企業と連携しながら取組を進めていきます。

道内の様々な方々と連携し、子どもの読書活動の充実に取り組んでいきたいと考えていますので、引き続き御協力をよろしくお願ひします。

## 各地の子ども読書応援団の取り組み紹介

## 「子ども達の笑顔が原動力！」

## 栗の子童話会(栗山町)

栗山町の「栗の子童話会」は、昭和59年に、栗山町教育委員会の主催による町民講座「読み聞かせとペープサート(紙人形劇)」の受講生が中心となって立ち上げた、読み聞かせボランティア団体です。

「幼い頃から本に親しみ、本が好きな子に育ってほしい」と、栗山町図書館で月に1回、読み聞かせや、工作、手遊びなどを行う「おはなしおもちゃばこ」を開催しています。

また、毎年、栗山町図書館と共催する、春の「子ども読書まつり」で、生演奏を取り入れたパネルシアターや人形劇を行ったり、冬には「クリスマス会」で、大型紙芝居やおりがみシアター、ペープサートを行ったりしています。メンバーは、「人形を手作りするなど準備は大変ですが、子ども達が笑ったり、一緒に歌ったりしてくれると本当にうれしいです。」と、活動を通して充実感を味わっています。

こうした取組から、平成16年には、「空知管内教育実践表彰」を、平成27年には、「優良読書グループ北海道表彰」を受賞しています。

代表の小原さんは、「私たちの原動力は、子ども達の笑顔です。これからも絵本をとおして、私達も楽しみながら仲間と活動を続けていきたいです。」と抱負を話していました。



「子ども読書まつり」の様子



「クリスマス会」の様子

## 「これからも、絵本のとびらを開き続ける」 読み聞かせの会「絵本のとびら」(日高町)

「絵本には、力があるの。人を動かして、人を幸せにする力がね。私は、そう信じている。」と力強く語るのは、読み聞かせの会「絵本のとびら」の代表を務める野澤みゆきさん。20年前、地元小学校に自ら絵本の読み聞かせ活動を申し入れたのが活動のきっかけです。会員数が20人を超える今も、「子どもたちに大切なものを育てたい。」という根幹の思いは設立当時と少しも変わりません。

「やりたいことを、やれる人がやる。」という方針の下、小学校を訪れての読み聞かせ活動は、訪問するメンバーも頻度も時間帯も、一定ではありません。しかし、どの訪問時も子どもたちは一点に吸い寄せられるように、絵本の世界に引き込まれていきます。



「絵本の世界に引き込まれる子どもたち」の様子

野澤さんの「やりたいこと」は、これだけではありません。図書指導員として派遣された地元高校では、図書館改革に取り組みました。図書館は生徒の動線にあるべきとの考えから、事務室横から生徒玄関前の部屋へと“引越し”しました。館内では本たちが表紙を向けてズラリと並び、まるで生きているかのように生徒たちを待っています。

絵本セラピーの資格も取った野澤さんは、ここで高校生にも絵本を読み聞かせます。生徒たちは絵本から感じたことを驚くほど素直に打ち明けます。

「カフェみたいな図書館にしたいの。そしたら、生徒たちがもっといろんな本と出会えるでしょ？」と笑う野澤さん。21年目を迎えた今年も、子どもたちの幸せを願いながら、絵本のとびらを開き続けています。

## 「子どもたちの笑顔と、次の10年を目指して！」 おはなしの会「ピノキオ」(千歳市)

33年前の1987年に設立し、過去にも「ゆめ＊よみ」(第6号(平成24年3月8日発行))で紹介されております。現在は会員7名で、毎月第3水曜日の午前11時から千歳市立図書館にて読み聞かせを行っています。失敗しても「気にしない、責めない」を合い言葉に、温かい雰囲気、子どもたちやお母さん方の笑顔や反応をエネルギーとして、楽しく活動を継続しています。

読み聞かせの会は歌からスタートし、歌で終わります。紙芝居や絵本の読み聞かせだけでなく、パネルや手作りのエプロンシアター、折り紙を折りながらのお話、海外絵本の英語での読み聞かせなど、バラエティーに富んだ内容でテンポ良く進めています。裁縫が得意な会員が手作りで人形やエプロンを準備し、各担当が個人練習を重ねるなど、子どもたちの笑顔を励みに準備、練習しています。

オンライン化される事業が多いコロナ禍の中で、「子どもたちの反応が見たい。」「生で声を伝えたい。」との思いで感染防止対策等、場を工夫して読み聞かせをしています。

設立から33年が経ちますが、これからは健康にも配慮し、体力の続く限り、子どもたちの笑顔がたくさん見られるように活動を続けていきます。



「楽しい歌からスタートする読み聞かせの会」の様子

## 「子どもたちが本を好きになってほしい」 本別町図書館ボランティア ぶっくる(本別町)

「本別町図書館ボランティアぶっくる」は、平成12年(2000年)に設立され、今年で20年目を迎えました。現在は25名の会員が登録しています。主な活動として、本別町図書館での子どもや障がいのある方を対象とした読み聞かせ、地域の小学校、保育施設、老健施設に出向いての読み聞かせを行っています。また、図書館で行われるイベントに合わせた手芸小物の制作や、「ぶっくるカフェ」の運営もしています。

「ぶっくる」では、定期的に会員が集まり、読み聞かせの練習をしています。読み聞かせの練習では、発声練習を行った後、会員が持ち寄った本を実際に読みます。聞き手の年齢や人数によって動きを工夫したり、問いかけでコミュニケーションを図ったりするなど、アイデアを出し合い、会員相互で切磋琢磨しています。練習に参加していたある会員の方は、「子どもたちに、この本は何を伝えようとしているのかを感じてほしい。そのために『ただ読む』のではなく『話しているような気持ち』を心がけている。」と、話



「読み聞かせの練習」の様子

特徴的な活動として、甚大な被害を受けた本別空襲の歴史を風化させることなく、後世へ伝えていくために、毎年6月から7月にかけて小学校で戦争をテーマとした本の読み聞かせをしています。「今後も、子どもたちに本の楽しさを伝えるとともに、本別空襲について語り継いでいきたい…」と平和への思いも話ってくれました。

## 「想像力を頼りにストーリーを楽しんでみませんか」 旭川おはなしの会(旭川市)

「旭川おはなしの会」は、「語り」を通して、「おはなし」(素話・ストーリーテリング)のもつ豊かな世界に触れ、語り伝えられてきた「おはなし」の魅力に親しんでもらうことを目的とし、昭和55年に結成されました。今年で、結成40周年を迎えるため、記念誌の作成に取り組んでいます。

現在は、22名が会員登録しており、乳幼児から大人まで幅広い世代の方に向けた活動を行っています。主な活動は、旭川市図書館の定例お楽しみ会でのおはなし担当や季節行事への協力の他、保育園・小学校での語りや読み聞かせ、大人向けの語りの会の実施等です。また、月に2回、例会を行い、活動の報告や研修も行っていきます。長年の功績により、平成7年度に「優良読書グループ北海道表彰」、平成16年度に「優良読書グループ全国表彰」を受賞しています。

結成時から活動に携わる会長の上森仲子さんは、「最近、乳幼児などの小さな子どもと接する機会が増えています。対象に合わせた内容が実施できるよう、例会では、言葉を大切にしたり、関わりが深まるよう研鑽に励んでいます。語りや読み聞かせが、小さなお子さんやお母さんが本とかかわる入口となるよう、活動を続けていきたいです。」と、今後の活動に向けての抱負を話していました。



「おはなし会」の様子

## 「本と人、人と人を結ぶ活動」

### おはなしネットぼんぼん(釧路市)

「おはなしネットぼんぼん」は、釧路市内の読書活動をしている個人やサークルのネットワーク形成と交流を目的に、平成14年に発足し、現在は13名の会員で活動しています。

会員は、個々に釧路市内の小学校や図書館などを会場に読み聞かせを実施していますが、団体として中心となる活動は年に2回開催する「絵本よみボランティア交流会」です。そこでは、読み聞かせのスキルアップに向けた研修や、お気に入りの絵本や個人の活動について情報交流を行っています。また、教育委員会や図書館から読書活動の現状について紹介していただき、その中で、学校図書館の蔵書を電算化によるデータ管理の必要性を会員が感じ、会員が学校図書館の環境整備に協力しました。

また、例年1月に実施する「冬のおはなし会」は、企画・運営を全て会員の手作りで実施しており、令和元年度は北海道教育委員会の「子ども・地域サポート事業」として実施し、事前の打合せが深まり、事後研修では今後実施する際の改善点を確認できました。

今後の抱負について、代表の原しげ子さんは、「読書を通じた、人と人のつながりを強くしながら、子どもたちには読書の楽しさを伝えていきたい。」と話していました。



『絵本よみボランティア交流会』でお気に入りの絵本を紹介する様子

## 「赤ちゃんから大人までみんなで絵本を楽しむ『おはなし会』」

### えほんのとびら(豊富町)

「えほんのとびら」は、絵本が大好きな2人(6歳の男の子のママと元保育士で1歳の女の子のママ)が読み聞かせを行うおはなし会です。

平成30年7月から豊富町定住支援センター「ふらっと☆きた」の豊富町図書室で絵本の読み聞かせ活動を始め、今年度(令和2年度)、北海道子ども読書応援団に登録しました。

毎月第2土曜日に図書室の絵本コーナーで読み聞かせを行い、赤ちゃんから大人の方々に絵本を楽しんでもらっています。

おはなし会では、季節感が感じられるような絵本や家庭で読み聞かせをしたくなるような本を選び、地域の子どもや保護者の方々が絵本に親しむことができるよう工夫しています。

参加した保護者の方々は「読み聞かせの仕方や本の選び方など、とても参考になる。」との声が寄せられるなど、大人でも楽しめる「おはなし会」として定着しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため一時活動を休止していましたが、現在は10月末に開催する「豊富町図書まつり」に向けて、豊富町教育委員会、図書室のスタッフと準備を進めています。

これからも、たくさんの子どもたちに本の楽しさを感じてもらうため、家庭での読み聞かせや子どもの読書推進につながるような活動を続けていきたいと考えています。



「おはなし会」の様子